

地域とともにある学校づくり、学校を核とした地域づくりをめざして

稚内型CS通信 つながる No.1



発行：稚内市教育委員会

発行日：令和7年3月17日

子育て運動をさらに前に進める！

稚内型コミュニティ・

スクールの体制づくり



稚内市教育委員会
教育長 佐伯 達也

本市は、市民ぐるみの子育て運動を四十年以上にわたって推進し、こどもを真ん中に、地域が子育てを応援することで、子どもたちの健やかな成長を支えてきたマチです。

全国的にも評価が高い稚内の子育て運動を令和の時代にさらに充実させるため、今、「稚内型コミュニティ・スクール（以下CS）」の基盤づくりが市内各地で加速しています。関係者の努力により、これまでに市内六つの中学校区（北・南・東・潮見が丘・宗谷・天北）にCSの基盤となる学校運営協議会が誕生し、育てたいこども像の共有や、その実現のために何ができるのか、各地域の特色を生かして精力的に検討が進められていることにお礼申し上げます。

令和六年度は、CSの本格的な運用に向けて、こどもたちの成長を地域全体で支える仕組みを強化するため、あらたにCS統括コーディネーターを配置し、C

Sの応援団として活躍していただくコーディネーターの体制づくりを進めているところです。

学校の応援団が増えることで、こどもたちにとっては、地域の方との関わりが増え、地域への愛着が生まれ、地域社会の創り手としての自覚が高まることを期待しているところです。また、様々な方との交流により、自己肯定感や思いやりの心が育つこと、さらにキャリア教育の面でも効果的であると考えます。

一方、地域にとっても、自分の経験や技能を生かすことができ、生きがいや自己有用感が生まれます。また、防災活動や地域行事への参加による地域の活性化が期待できます。

このように、CSは学校、家庭、地域にとって大きな効果が期待できることから、皆様にはいつそうのご理解・ご協力をお願いいたします。市民みんなの力で、こどもたち、地域、そして稚内の未来をつくっていきましょう。

CS運営委員会

活動交流を行いました

今年度から、稚内市教育委員会は、市内各CS（六地区）の運営や活動について交流し、相互に学んでいくための「稚



内市CS運営委員会」を設置しました。これまで二回実施しており、各地区の活動状況を交流し、成果や課題を共有しながらすすめているところです。

交流内容で共通していることは、

①学校運営協議会での話し合い（熟議）が豊かになるよう、テーマの設定、グループ協議等、運営上の工夫をしていること。
②「不登校」をはじめ、教育が抱える課題を共有し、CSとして地域と共に行うことができるか話し合っていること。

③学校と地域が連携・協力して、こどもたち、地域住民のための具体的な計画づくりや活動が始まっていること。

このように、地域の持ち味を生かしながら、各CSが動き始めました。



第2回稚内市CS運営委員会(12月13日)



子育て運動交流研修会を開催、

稚内型CSの取組を発信！

二月七日、稚内文化センターで令和六年度の「子育て運動交流研修会」が開催されました。「各地区の子育てに関わる実践を交流し、相互に学びあい、様々な世代で語り合う」というテーマで多くの市民、関係者が参加しました。

子どもの成長を

支えるためのしくみづくりを提案

研修会の冒頭、佐伯教育長の挨拶に続き、本間CS統括コーディネーターから、CSを応援するためのしくみづくりとして、「地域別・分野別のコーディネーター」について説明を行いました。

○地域別コーディネーター

子ども・学校の身近な応援団として、各地区（中学校区）で選出します。キャリア教育をはじめ教育活動を支援していただく人材を紹介したり、子どもたちの支援に協力してくれたり、学校にとっても頼りがいのある応援団として役割を発揮して頂きます。

○分野別コーディネーター

稚内型CSの全市的な応援団として、各分野で活躍されている方々を市教委の責任で選出するものです。キャリア教育の推進や子ども支

援に関するアドバイス、CSの運営に関する意見を頂きながらそれぞれの立場から応援して頂きます。

子どもたちのために何ができるか？

研修会はその後、4人のパネラーによる「子どもたちのために大人としてがんばっていること」「稚内について考えていること」を報告。「子どもたちの未来を応援したい」「稚内が魅力ある街になるために」な



どの思いが伝わる内容でした。そして、最後にパネルディスカッションを受けて、八つのグループで活発な意見交換が行なわれ、子育て運動、CSの活動を豊かにしていくための学びの場になりました。



グループ協議の様子

稚内型CSの活動・実践紹介 ①

— 地域・住民と共に防災を学ぶ取組 —

令和五年度から導入された「コミュニティスクール（CS）」により、学校と地域が連携・協力した「防災の活動」が取り組まれています。潮見地区と北地区の実践を紹介します。

【潮見地区の防災運動会】

潮見地区の「防災運動会」が、九月二十一日（土）、潮見小体育館で実施されました。昨年度から導入されたCSの新たな試みとして、地域と子どもたちが交流を深めながら防災を学ぶ取組です。今年で二回目の開催となり、子ども

大人・高齢者も身体を動かしながら楽しく防災体験ができるよう工夫しながら取り組んでいます。



担架を協力して運びます

【北地区の一日防災学校】

北地区の防災の活動は、これまで学校がそれぞれ実施していた「防災学校」を中央小・稚内中に



「北地区1日防災学校」から
開発局による災害時のドローン飛行

加えて、幼稚園・保育園、そして住民の皆さんも参加して地域の「防災学校」として実施されました。北地区子ども育成連合会の援助も受けながら、气象台、開発局、消防署、総合振興局、市の総務防災課との連携・協力で四百名規模の事業となりました。